

校訓「至誠」

＜学校教育目標＞

主体的に学び、心身ともに健やかで、
人間性豊かな生徒の育成

- 【自律】自ら考え、判断し、行動する生徒
- 【尊重】思いやりをもち、互いを尊重する生徒
- 【協働】伝え合い、聞き合い、共に創造する生徒
- 【克己】困難に挫けず、粘り強くやり抜く生徒
- 【健康】規則正しい生活(運動・食事・休養)を作る生徒

＜国・県・市の施策＞

- ◇第3期教育振興基本計画
- ◇山梨県教育振興基本計画
- ◇山梨県学校教育指導重点
- ◇第2次創甲斐教育推進大綱

＜保護者・地域の願い＞

- ・心身共に健康であること
- ・学力の定着と良好な人間関係
- ・思いやりと協力
- ・規範意識とマナー
- ・地域への愛着、貢献する態度

生きる力の育成

確かな学力 豊かな心 健やかな体

【めざす学校像】

- 安全、安心で、一人一人の居場所がある学校
- 楽しい、行きたい、やりたい、がたくさんある学校
- 働きやすく、働きがいのある学校
- 地域といっしょに子どもを育てる学校

【めざす教師像】

- 子どもを真ん中において考える教師
- 子どもに寄り添い、伴走する教師
- 自己を磨き、謙虚に学び続ける教師
- 助け合いと恩返しができる教師
- 自分の人生を大切にする教師

【今年度の教育及び経営重点】

- (1)豊かな心の育成 (2)誰一人取りこぼさない生徒指導・生徒支援 (3)望ましい人間関係の形成
(4)学びの楽しさを育てる学習指導 (5)健康・安全教育の充実 (6)地域・保護者ととともにつくる学校
(7)働きたいと思える学校づくり

【豊かな心の育成】

- ①校訓「至誠」を大切にし、思いやりと互いを尊重する態度を育てる。
- ②本校の宝である「至誠の鐘」「日本の玄関」「整理整頓」「朝読書」等の取組を継続・発展させる。
- ③コミュニケーションづくりの第一歩としてあいさつを習慣化する。
- ④ジェンダー、多様性への理解を深め、人権を尊重する態度を育てる。
- ⑤SDGSの取組を推進し、社会の一員としての自覚を醸成する。

【誰一人取りこぼさない生徒指導・生徒支援】

- ①日頃の観察とアンケート等により生徒の実態を把握するとともに、日常的な情報交換により不登校、いじめ等の未然防止、早期対応を行う。
- ②生徒の自己決定を大切にし、教師は支援的伴走者の関わりを大切にする。
- ③自己肯定感、所属感のある学級集団づくりと生徒への適切な役割と支援・評価を行う。「ほっとスペースこすす」の効果的運用を進める。
- ④支援を必要とした課題を抱える生徒の校内委員会による情報共有と改善及び支援を行う。スクールカウンセラー等専門スタッフと連携する。

【望ましい人間関係の形成】

- ①朝の会、帰りの会等を利用してお互いの考えを伝え合い聞き合う場面を設けることで、コミュニケーション力を育てる。
- ②学級活動、委員会・部活動等で振り返りを行い、自分たちの生活を自分たちでよくしていくとする態度(自治力)を育成する。
- ③学級活動や生徒会活動、学校行事等により居場所づくりや絆づくりを進め、自己肯定感やお互いを認め合う態度を育てる。
- ④職場体験等啓発的体験活動を充実し、学校生活全般においてキャリア教育を推進する。

【学びの楽しさを育てる学習指導】

- ①授業に臨む基本的姿勢を確立し、学びの土台となる落ち着いた学習環境を作る。
- ②身に付けさせたい力(評価の視点)の提示することで、主体的な学習態度を育成し、透明性のある評価を行う。
- ③自らの考えを記述する機会を計画的に位置づけ、整理しまとめる力を育成する。
- ④問題解決的な学習を位置づけ、対話機会を充実させ、物の見方・考え方を広げる。
- ⑤振り返り場面を位置づけることにより、自らの学習を調整していく力を育成する。
- ⑥ICTを効果的に利用し、学習意欲と学習効率の向上を図る。

【健康・安全教育の充実】

- ①健康3原則(栄養、睡眠、運動)を推進し、望ましい生活習慣を確立するとともに、健康のためにできることを実践する態度を養う。
- ②体育的行事や部活動等を通して、体力の向上を図るとともに、最後までやり抜く粘り強くなやかな心を育てる。
- ③避難訓練等により自助・共助の精神を涵養するとともに、安全に関心をもち災害時に適切に判断し行動できる能力と態度を育てる。
- ④学校施設・設備の点検、整理整頓により安全な生活環境を保持するとともに、危機管理マニュアルの見直しを行う。

【地域・保護者ととともにつくる学校】

- ①学校と保護者が子どもを育てるパートナーとして信頼・協力関係を構築し、一人一人が全人的な発達を遂げられるようにする。
- ②PDCAによる教育活動の改善に努めるとともに、学校運営協議会の効果的運用を検討する。
- ③「地域の子どもを地域で育てる」という考えに立ち、地域の方に学校の教育活動を理解してもらう方策と地域の方に学校を支援してもらう体制づくりを行う。
- ④保護者や地域の方にボランティアとして学校の活動に参加してもらうことと同時に生徒が地域に貢献する活動を考え、実施する。

【働きたいと思える学校づくり】

- ①ウェルビーイングの考えに基づき、一人一人の職員が働きたい(働きやすく、働きがいがある)と思える学校づくりを職員全体で進める。
- ②学校は「大人の学び合いの場」という認識をもち、心理的安全性のある職場を作る。そのために一人一人が日頃のコミュニケーションを大切にする。
- ③適切な校務分掌配置を工夫するとともに業務が過剰負担になっている職員がいないか把握し、必要に応じ校務分掌の見直しを行う。
- ④学校行事等諸活動の目的の明確化焦点化、取組の工夫改善により取組時間の縮減、時間外勤務の縮小、職員の加重負担を避ける。
- ⑤計画的な年休取得を進めるとともに、それぞれが異なる家庭状況を抱えているとの前提に立ち、休みやすい職場風土を醸成する。
- ⑥職員一人一人が働き方改革の当事者としての意識をもち、自分の働き方を見つめ、日々小さな業務改善に取り組む。

Vertical line